

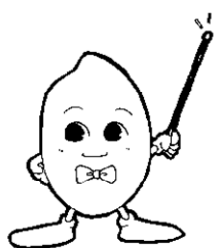
JA 北越後営農情報 No.2

平成 31 年 4 月 4 日発行



播種作業は田植日から逆算して始めましょう。育苗期間の気温が高くなると、苗の徒長や老化で初期生育不良が心配です。育苗日数が長くなりすぎないように注意しましょう。

☆ポイントは温度！浸種水温とハウス内温度に要注意！



○浸種水温 10～15℃で積算水温 100℃をめどに浸種！

休眠の深い品種であるコシヒカリ及び五百万石は積算水温を 120℃に。

特に、初期の低水温に注意してください！

○30℃以上で催芽を行うと、細菌性病害の発生が懸念されるため注意しましょう。

【催芽の目安】温度 28～30℃、1～2 日かけてハト胸状態になるよう催芽を行いましょう。

○4 月中旬以降に浸種する場合は水温が上昇しやすいので注意！適宜水の交換を！

○育苗中に霜注意報が発表された場合はビニールを閉め、保温資材をかけて保温！

○ハウス内温度に注意！日差しがあればハウス内はあっという間に高温に！

☆種子伝染性病害



購入種子なのに病気？

本田では息をひそめ糶もキレイで問題なし！
もちろん採取農家も徹底防除をしているけれど、
なんせオレたちはどこにでもいる菌、とりつく機会をいつでも覗っているんだぜ・・・
正しいやり方で消毒しないと増殖しちゃうぜ～♪



<上手な種子消毒法>

- ①種子消毒の効果を高めるため、まずは塩水選でできるだけ健全な種子を使用することが重要！
- ②それぞれの種子消毒法の特徴をふまえ、正しいやり方を確実にすることが重要！

それぞれのポイントを再度確認して確実な消毒を実施しましょう。

【 温湯消毒 】 種もみ袋の中心まで熱を！

高温のお湯によって種子消毒を行う方法で、概ね 60 度前後のお湯に 10 分ほど種籾を浸して殺菌する方法。



1. 温度管理

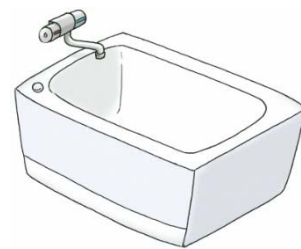
温度が低いと消毒効果が不十分になり、温度が高すぎると種籾の発芽率が低下してしまう。

十分に消毒効果をあげられる温度は 60℃！

2. 均一に熱を伝える

全ての種籾に 60℃のお湯に当てることができるかが最大のポイント

種もみ袋の中心部にも十分に熱が伝わるように湯量は多めに！種もみ袋をよく揺する！袋に詰めすぎも NG です。



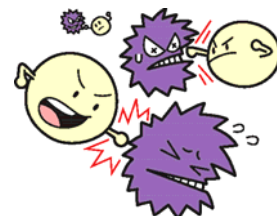
【 種子消毒剤 】 薬剤を確実に付着させる

化学合成農薬も微生物農薬も、十分に種籾に付着させて有効成分を病原菌の存在する部位にまで到達させること安定した効果を得るポイントです。



1. 慣れた剤でもラベルを確認！使用方法をまもって確実に処理

特に微生物農薬は、病原菌の栄養を横取りしたり、住処を奪ったりすることで効果を発揮するので、病原菌より先に微生物農薬の有効成分菌を増殖させることがより効果を安定させるコツ！



2. 袋の中心の籾までしっかり薬液が触れるように、浸した後はよく揺する

3. 作り置き、使いまわしは絶対にしない

雑菌が繁殖していて危険です。薬剤は必ず使用直前に調製しましょう。

商品名	化学/ 微生物	適用内容					
		糸状菌（カビ）による病害			細菌による病害		
		ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	もみ枯細菌苗	苗立枯細菌苗	褐条苗
テクリードCフロアブル	化学	○	○	○	○	○	○
モミガードCフロアブル	化学	○	○	○	○	○	○
エコホープDJ	微生物	○	○		○	○	○
タフブロック	微生物	○	○		○	○	○

！種子処理後の廃液は河川等への流出に十分注意し、適切に廃棄しましょう！

！使用上の注意をよく読み、安全で効果的な消毒をしましょう！

☆播種・育苗

催芽粃 150～170 g 播種量の目安

1. 均一にうす播き
(適量：乾粃 130～140 g 催芽粃 150～170 g)
2. 播種時の灌水量は1箱あたり1～1.2ℓとたっぷり灌水
(ただし積み重ね出芽や蒸気出芽方式はやや少なめにしましょう)
3. 高温時はしっかり灌水！低温では灌水を控え被覆資材で保温
4. 緑化～硬化期前半は1日1回
気温と温度差の少ない午前10時までに灌水しましょう。
後半は1日2回を目安に灌水しましょう。
夕方に灌水すると土の温度が下がり根の生育が阻害される可能性があります。表面が乾く場合でも葉先に水滴がつくようであれば床土の水分は十分です。
5. 後半はしっかり灌水
育苗の後半は温度も高くなり床土が乾きやすくなるので注意しましょう。



最近よく聞く密苗ってどうなの？

「密苗」は、育苗箱当たりの乾粃播種量が通常130～140g（催芽粃150～170g）のところを、250～300g（催芽粃300～360g）と高密度に播種します。育苗日数の短縮や、省力化が図れますが、注意も必要です。



- ①徒長しやすい
軟弱苗にならないよう、育苗中の温度管理に注意！長期の育苗もNGです！
- ②ほ場は均平に
ラフなほ場だと浮き苗・欠株が多くなります。丁寧な代かきを行いましょう。
また、水深が深い場所も注意が必要です。
- ③田植えは専用の爪で
かきとり範囲が小さいので植えすぎを防ぎ、爪痕も小さいため浮き苗欠株を軽減させます。
- ④好天で田植を
普通苗より小さく弱い苗を植えるので初期生育停滞のリスクもあります。
好天時に田植えを行いたいのは通常でも同じですが、より一層注意が必要です。


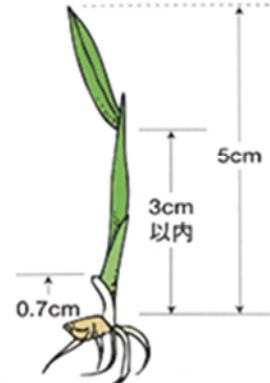
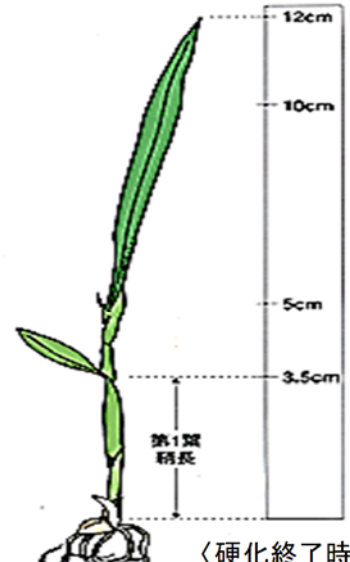
ご相談は JA へ

☆育苗管理のポイント

- ①出芽期の高温は短時間でも「重大な苗ヤケ原因」になるので積極的に換気を！
(特に小さいハウスは温度の変化が大きいので注意)
- ②30℃以上にならないようにハウスの風下側を開けて換気をしましょう。
- ③夜間の低温(8℃以下)では被覆資材を掛けるなど保温に努めましょう。

【プール育苗のポイント】

- ①入水時は苗質向上のためアミグロー(1ℓ入り苗100枚分)も施用しましょう。
- ②入水後は原則として昼夜ともビニールは開放しましょう。
- ③苗が徒長しやすいので換気の徹底をしましょう。(強風対策としてハウスの外周に防風ネット張ると〇)
- ④水温が30度以上になる日が続く場合は水の入替えを行いましょ。
- ⑤田植後の活着促進を図るため必ず追肥資材(べんとう肥)等の施用をしましょう。
- ⑥低温時の移植はなるべく避けましょ。

	出芽期		緑化期	硬化期
期間	加温出芽2日	無加温出芽5日	2～3日	12～14日
温度	28～30℃	昼 28～30℃ 夜 15℃以上	昼 20～25℃ 夜 15～18℃	昼 15～20℃ 夜 10℃以上
被覆	芽の伸び過ぎに注意 しましょう。	シルバーポリトウ#80と ラブシートの二重被覆 被覆資材を育苗箱の下に 巻き込みましょ。 ハウス内の温度が30℃以上 にならないよう換気を行 いましょ。	ラブシート等の一重被覆 低温時は二重被覆で保温に努 めましょ。 第1葉が展開したら硬化に移し ましょ。	無被覆とするが夜間の霜が予想され る場合は被覆ましょ。 換気を十分にいき、しっかり硬化させ ましょ。 田植5～7日前から夜間も換気を行 いましょ。
水管理	出芽器の種類により灌水 に注意ましょ。 ※蒸気式は少なめ	播種時に 十分灌水ましょ。	過湿に注意！根張りが悪くな ります。	硬化期前半は1日1回午前中に十分灌 水ましょ。 低温が続く場合は、かん水を控え床 土の保温に努めましょ。
	覆土のもち上がりがみられたらさっと灌水して 覆土を沈下させ緑化に移ましょ。		水分状態を確認し遅くとも 午前10時までに 灌水ましょ。	後半は1日1～2回十分灌水但し夕方 はさけましょ。
生育目標	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 近年、育苗期の高温により苗ヤケが多く発生しています。 特に新しいビニールは、温度が上がりやすいので十分注意してください。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>〈出芽終了時〉</p>  <p>根数1本</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>〈緑化終了時〉</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈硬化終了時〉</p> </div> </div>			